

北信越地区インカレ予選(5/26~27)、小松市で開催

松本大学、決定戦で劇的なサヨナラ勝ち！ 大会初出場・初代表入りから、13年連続13回目のインカレ出場決める

文責 松本大・学長 住吉廣行

[対戦の枠組み - 各チームの試合数を多く -]

本大会では、参加6校をA組(松本大学、金沢大学、新潟医療福祉大学)とB組(金沢学院大学、富山大学、信州大学)に分け、各々のブロックで総当たり戦を初日に行う。

2日目は、まずA組1位 vs B組2位、A組2位 vs B組1位が対戦し、その後それぞれの勝利チームが、インカレ出場決定戦を戦う。北信越の地域が広く、どのチームも真剣勝負となる試合数が少ないため、一度負けたら敗退決定というトーナメント形式を採用せず、全参加校が一堂に会した機会を活用して、多くの試合が出来るようにという工夫がなされている。その一つにA3vsB3の研修試合も組まれている。

[代表枠の設定 - 1枠から1.5枠へ -]

北信越地区の登録・参加チームの減少で、昨年は出場枠が2校から1校へと減少したが、今年は参加校が若干増加したため、本大会2位チームがやはり同様の傾向にある九州地区の2位チームとインカレ出場をかけて決定戦を、中間にある岡山県で実施されることが決まっていた。つまり1校枠から1.5校枠へと幾分拵がったことになっていた。それでも本学と金沢学院の“指定席”状態が解消されていることには変わりがない。この意味で昨年度より少しは低くなったが、やはりプレッシャーがかかる試合であることは間違いない。

[応援団の形成 - 石川県勢にも負けない数で -]

筆者は5/26の土曜日には本学後援会総会があったため、2日目から中村文重氏と一緒に観戦ということになった。遠くは福岡から飛行機で小松空港へ、名古屋近辺から米原経由の高速利用で会場へなど、現役生の保護者や卒業生及び卒業生の保護者等、多数の応援団が駆けつけて声援を送った。懐かしい顔との出会いにも、近況報告を含め会話が弾んだのは言うまでもない。

[試合経過 1日目]

さて試合経過であるが、松本大学は初日は、金沢大学を37-0、新潟医療福祉大学を9-0の、いずれもコールド勝ちでA組を1位で通過。一方B組では金沢学院大学が信州大学を13-0、富山大学を50-0のコールド勝ちで、B組を予想通り1位で通過。

[試合経過 2日目 決定戦前まで]

松本大学の2日目はまずB組2位の信州大学戦。結果的には18-6のコールド勝ちであったが、対国立大戦での6失点は過去最大であり、次の決定戦に不安が残った。一方の金沢学院は新潟医療福祉大を11-0で下しての危なげない進出であった。

●インカレ代表決定戦 二日目 第二試合 10:45 ~ 12:45

	1	2	3	4	5	6	7	計
金沢学院	0	0	0	3	0	1	0	4
松本大学	0	0	0	0	4	0	1 x	5

打撃成績

打順	氏名	守	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	打	安	点
1	甲田	5	・左前		一ゴロ		四球		遊安	3	2	0
2	熱野	4	一前野選		遊内安		中前		二ゴロ	4	2	0
3	酒井	6	三直併		左直		右前②		四球	3	1	2
4	小山	3	三振			・投強安	左線②		左越①	4	3	3
5	青柳	DP		・左飛		一前犠	中前			2	1	0
6	寺田	2		中前		遊ゴロ	捕前ゴ			3	1	0
7	清水	6		三前犠				捕邪飛		1	0	0
PH	宮下					二ゴロ				1	0	0
8	石田	7		遊ゴロ			・左線	二ゴロ		3	0	0
9	下島	9			・二ゴロ		三前犠	中飛		2	0	0
PR	細井											
DF	山下	1										
DF	大西	1										

2盗死:青柳 3盗:甲田 26 10 5

投手成績	回	打者	被安打	三振	四死球	自責点
多田	4 2/3	19	6	2	0	3
大西	2 1/3	11	4	0	0	1
2 6	4 1/3	22	8	1	1	4
3 7	2	9	3	0	1	1

本塁打	19, 24 (共に4回)
三塁打	22 (6回)
犠打	松大3 金沢学院0
盗塁	松大1 金沢学院4
失策	松大0 金沢学院0

〔観戦記〕

緊張感のあるマウンドへ向かう多田。一回表立ち上がり、先頭打者が多田へのライナー。がっちりグラブに吸い込んでほっと一息。二番打者に右前に運ばれ、二盗を許すも、三番を遊飛、四番を左飛に打ち取ってピンチを凌ぎ、まずまずの立ち上がり。一回裏の松大に早速チャンスが。対信州大戦でサイクルヒットを放った甲田が好調を継続し、左前へ運ぶ。続く熱野の二前への犠打だが、俊足の甲田に対し間に合わない二塁へ送球し野選に。一気に先取点へのチャンス。ここで前の信大戦で3打数2安打2打点の酒井。もちろんヒットインング。しかし三塁手横への好打がライナーとなって、飛び出した甲田と合わせ不運な併殺打となった。二回表多田は三者を危なげなく打ち取る。二回裏松大は対信大戦で3打数3安打で9番から6番に抜擢された寺田が一死から中前打で出塁し、清水の犠打でスコアリング・ポジションまで進んだが、石田が遊ゴロに倒れた。三回表も多田は三振を含む三者凡退に退け、安定している。三回裏の松大も二死から熱野がショートへの内野安打で出塁したが、酒井の右線への先制打かという際どいファールの後、左直に倒れた。四回表好事魔多しの通り、先頭の二番打者にレフトオーバーの本塁打を浴びる。一死から4番に中前に、5番に今度はライト線への2点本塁打を喫する。男性用の70mを越える位置にフェンスが設定されていたため、外野深くまで転々とする本塁打であり、女性用のフェンスなら二塁打、せいぜい三塁打止まりだっただろう。しかし3点もの先行を許してしまった。四回裏1点でも返したい松大は、小山の投手強襲の安打を青柳が送り、寺田に期待したが遊ゴロ。ここで宮下を代打に送って勝負に出たが二ゴロに倒れてしまった。五回表二死から1番打者に右前に運ばれたところで、多田から大西へ投手交代。先ほど本塁打を打たれた二番打者を二ゴロに打ち取った。五回裏に松大の好機が。まず石田が左線に安打。下島はあくまで犠打で送る。甲田は空いている一塁は埋めても良いという、敬遠気味の四球。つづく熱野は中前に転がして満塁。ここで酒井がライト前へ適時打。石田と俊足の甲田が生還。本塁への送球の間に酒井は2進し、一死2、3塁。つづく4番の小山もレフト線へ引っ張り、熱野は楽々同点の生還、酒井は頭から滑り込んで、左手で本塁ベースをタッチする絶妙の走塁で際どくセーフ。ついに逆転。さらに青柳も中前にクリーンヒットでチャンスは拡がり、一死1、3塁。もう1点欲しいところ。ここでのサインがどうだったか分からないが、押し寄せの中で青柳が2盗を試みたが、相手捕手の果敢な二塁への送球でアウト。次の寺田もバンドヒットを狙ったが、相手捕手に上手く処理され追加点が挙げられなかった。六回表には一死から4番打者に右前にポテンと落ちる安打。下島スライディングで捕球を試みたが、グラブを弾きファウルラインを越え転々。熱野が処理したが3塁まで許してしまった。続くは先ほど本塁打を許した5番打者、痛烈ではあったが遊直に切り取った。この試合、当たっていない次打者を打ち取れば勝利が見えてくると思っていた矢先、中前打を放たれ同点に追いつかれた。先ほどの5回の逸機が特に悔やまれた瞬間でもあった。六回裏の松大は7番からの下位打線が簡単に三者凡退で終えてしまい、いやな雰囲気も。しかし七回表の相手は当たっていない8、9からなので簡単に終えれば、その裏の松大は甲田からなので何とかかなるかと思っていたが・・・。あに凶らんや、8番に際どい遊撃内野安打、9番にも二塁へバスター気味に転がされ無死で1、2塁。最大のピンチに。1番打者は左飛に討ち取り、当たっている2番打者は投手へのゴロ。もう一息。しかし3番打者はライトへ抜けようかという当たり。これをキャプテン熱野が横へよく走り、打球はグラブに。これで2塁走者の本塁生還を食い止めた。素早く立ち上がって、二塁をオーバーランしていた走者をアウトにすべく二塁へ送球。走者を挟んだ。これを見た三塁走者が本塁へ向かったが、今度は三本間での挟殺プレイに。見事にタッチアウトで絶体絶命のピンチを逃れた。ピンチの後にチャンス有り。今度は逆にサヨナラへの期待が高まる。七回裏先頭甲田が期待に応え、遊撃への内野安打。続く熱野は進塁を狙った送り気味の二塁ゴロで甲田は2進。ここで酒井は良く選んで四球。最後のボールを捕手がちょっとファンブルする間に甲田は抜け目なく3塁を陥れる。4番打者の小山が、粘ったあげく左翼手の頭を大きく越えるサヨナラ安打で、ベンチも観戦者も興奮は最高潮。門前高校で見た小山のセンターオーバーの快打を思い出していたのは筆者だけだったかも知れないが、この試合は3打点の大活躍だった。このサヨナラ劇の始まりは、熱野の横っ跳びの堅い守りだった。また試合を諦めないサインやベンチ、控えの声援だった。この勝利で、戦力は確実に一段階上がったように思う。インカレでの活躍を期待したい。金沢学院大には、福岡大を倒し北信越の第二代表となりインカレで共に暴れて欲しいと思う。駆けつけた家族も、これで気分良く帰れると大喜びでした。久しぶりのスリリングな試合内容だった。